

第10章 景観構造の分析

第1節	調査事業の概要	(姫野 由香)
第2節	住民による対象地域の景観認知	(姫野 由香)
第3節	外来者による対象地域の景観認知	(姫野 由香)
第4節	調査地域における選好景観の特性分析	(姫野 由香)
第5節	古写真にみる対象地域の景観特性と景観重要地域	(姫野 由香)
第6節	歴史変遷による景観の変容	(姫野 由香)
第7節	重要文化的景観を構成する景観構成要素の抽出	(姫野 由香)

第1節 調査事業の概要

1 調査の背景と目的

大分県別府市は国内では第1位、世界でも第2位である湧出量を誇り古くから湯治場として栄え、観光都市として長い歴史と特徴的な文化形態を形成してきた。その中でも地獄や温泉施設、宿泊施設が充実しており観光モデル地区として多くの観光客で賑わう「鉄輪温泉地区」、温泉の成分を結晶化した湯の花を製造するために建てられる藁葺きの湯の花小屋が独特の景観を形成している「明礬温泉地区」の2つの特徴的な地区がある。近年この「湯けむり景観」を地域における生活や当該地域の風土により形成された「重要文化的景観」として選定して、後世に残すために一体的に保護しようという取り組みが2つの地区で始まりつつある。

本調査では、まず、別府市鉄輪・明礬温泉地区において、外来者や住民がどのような景観を好ましいと考えているかに注目し、外来者と住民の要素評価の調査と歴史・文化的裏付けにより保存対象となり得る景観構成要素を抽出する。地区外からの視点として外来者とのタウンウォッチングにて景観構成要素の抽出を行う。そして、地区内部からの視点として明礬地区住民に対して要素についてアンケート調査を実施する。さらに、住民とのワークショップや、資料文献調査、ヒアリング調査により地区の歴史、文化と景観構成要素との関わりの調査を行うことで、異なる2つの視点からどのような景観や要素が鉄輪・明礬温泉地区において重要であると認知されているかを把握する。その後、抽出された要素について歴史的背景を考慮しながら研究者シャレットにより重要な景観構成要素を選定する。さらに、土地利用の実態状況を調査し、別府市鉄輪・明礬温泉地区の文化的景観としての特性を把握している。

2 調査対象範囲

調査対象範囲は、鉄輪温泉地区と明礬温泉地区の中で別府市教育庁生涯学習課が平成21年2月現在、重要文化的景観選定を目指している地区とする。

具体的には図10.1.1の着色で示す西の地区が明礬温泉地区（9ha）、東の地区が鉄輪温泉地区（36ha）である。

鉄輪温泉地区－明礬温泉地区間は、九州横断道路と国道500号により往来することができる。また、明礬温泉地区付近には大分自動車道が通過している。

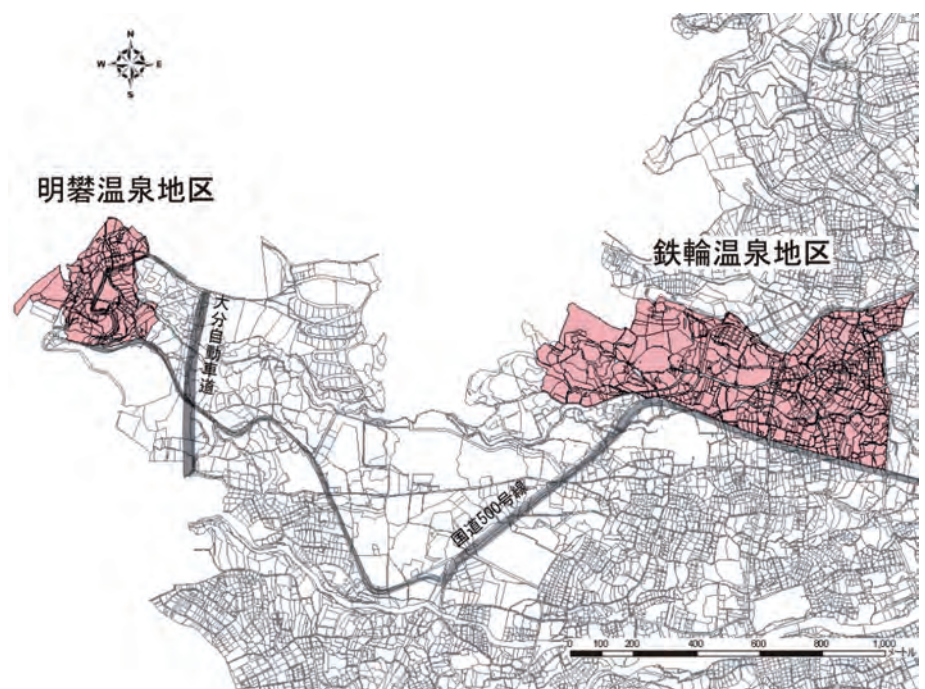


図10.1.1 調査対象地区

3 調査の概要

(1) アンケート調査

〈鉄輪温泉地区〉

目的： 住民の視点から鉄輪温泉地区の景観と景観構成要素についての評価を行う。

配布方法： 自治会単位で市報にアンケートを折り込み配布。また対象地区外に在住している地権者については、郵送にて配布を行った。配布数は1世帯に1部とした。

期 間： 平成18年8月8日～平成18年9月8日

対 象 者： 鉄輪温泉地区住民

配布結果： 配布数532部、回収率は18.8%

〈明礬温泉地区〉

目 的： 住民の視点から明礬温泉地区の景観と景観構成要素についての評価を行う。

配布方法： 調査対象地域内に在住の住民に向けて自治委員を通して配布した。配布数は1世帯に1部とした。

期 間： 平成20年7月1日～平成20年9月30日

対 象 者： 明礬温泉地区住民

配布結果： 配布数42部、回収率は55%

(2) タウンウォッチング

〈鉄輪温泉地区〉

目 的： 鉄輪温泉地区に関して、外来者の視点から、好まれる景観、注意すべき景観を抽出する。

日 時： 平成20年12月5日（金）14：00～16：00

場 所： 鉄輪温泉地区

参加人数： 13名（大分大学13名）

〈明礬温泉地区〉

目 的： 外来者の視点から、明礬温泉地区の景観を構成している特徴的な要素、好まれる景観、注意すべき景観を抽出する。

日 時： 平成20年6月6日（金）14：00～16：00

場 所： 明礬温泉地区

参加人数： 15名（別府大学7名、APU2名、大分大学6名）

(3) ワークショップ

〈鉄輪温泉地区〉

目 的： 住民に鉄輪温泉地区を歩いてもらい要素抽出を行った後、抽出された要素について改善すべき課題の整理や住民の意見抽出を行う。

日 時： 平成18年10月17日（火）13：30～15：30

場 所： 別府市役所朝日出張所

参加人数： 鉄輪温泉地区住民14名

スタッフ数： 18名

〈明礬温泉地区〉

目 的： 外来者と住民から抽出された要素が地域にとって重要な景観構成要素であるかを検証する。また、アンケート、タウンウォッチングにて挙げられなかった、好まれる景観と景観変容について住民の意見抽出を行う。

日 時： 平成20年11月6日（金）18：00～20：00

場 所： 特養老人ホーム泰生の里

参加人数： 明礬温泉地区住民16名

スタッフ数： 10名

(4) ヒアリング調査

目的： 調査対象地区における景観やそれらを構成する景観構成要素の歴史的背景を把握するため、研究対象地区の景観の形成と維持管理に携わり、明治－大正期から旅館業を続けている地元住民と、別府市の歴史研究・取材を重ねている地元新聞記者を対象に行った（表10.1.1）。

調査期間： 平成20年7月30日～平成21年2月8日（全6回：21時間程度）

(5) 文献資料調査

以下に収集した文献資料を示す（表10.1.1）。

表10.1.1 文献調査概要

名称	著者名	出版者	出版年数
朝日村史	安部昨男	不明	昭和32年
一遍上人と鉄輪温泉	一遍上人研究会	一遍上人研究会	平成16年
大分県交通史	九州交通新聞社	不明	昭和33年
鉄輪温泉テレフォンガイド	鉄輪商工連合会	鉄輪商工連合会	昭和57年
鉄輪ハローガイド	鉄輪商工連合会	鉄輪商工連合会	平成5年
写真集明治大正昭和別府	安倍 巖	国書刊行会	昭和55年
西暦2000年 別府風土期	恒松 栖	恒松 栖	平成12年
鉄輪温泉パンフレット	不明	不明	昭和11年
懐かしの別府物語(今日新聞)	小野 弘	今日新聞	平成19年
ふらり別府	山下 靖美	毎日新聞	昭和55年
別府今昔風土記	志多摩 一夫	別府郷土文化史研究会	昭和52年
別府温泉	不明	不明	不明
別府温泉史	別府観光協会	いずみ書房	昭和38年
別府温泉資料集成	入江秀利	不明	平成7年
別府温泉湯治場大辞典	安倍 巖	創思社出版株式会社	昭和62年
別府温泉歴史略年表	堀 藤吉郎	麻生書店	昭和41年
別府市誌	別府市／編	別府市	昭和60年
別府市誌第二巻	別府市	別府市	平成15年
別府市史	別府市／編	別府市	昭和3年
別府市誌第一巻	別府市	別府市	平成15年
別府文化史年鑑	志多摩 一夫	別府郷土文化史研究会	昭和48年
湯けむり散歩	河野 忠之	鉄輪愛耐会	平成17年
湯けむりの里-鉄輪スケッチ-	吉本 秀俊	鉄輪愛耐会	昭和61年
湯の花の研究	恒松 栖／編	恒松 栖	平成19年
大正04年「別府温泉」	参考資料	小野提供資料	大正4年
大正12年豊後温泉地旅館名簿	参考資料	小野提供資料	大正12年
別府市誌第三巻	別府市	別府市	平成15年
別府鉄輪温泉湯けむり散歩	鉄輪共栄会／愛耐会	鉄輪共栄会／愛耐会	不明
明治40年「豊後温泉誌」	参考資料	小野提供資料	不明
目で見る 別府・杵築・国東の100年	加藤知弘	郷土出版社	平成12年12月10日
秘蔵写真集 目で見る 大分百年	不明	大分合同新聞社	昭和61年
ふるさとの想い出写真集 明治・大正・昭和 別府	安部巖	国書刊行会	昭和55年2月25日
写真で見る 懐かしい昭和の記憶 昭和30年頃の大分県	平尾昌英	アーカイブス出版	平成20年2月5日
別府温泉名勝 別府原風景・八湯絵はがき	不明	別府八湯熊八会	平成10年9月
湯の町別府 歴史写真館	不明	http://www.beppu-navi.jp/syashinkan	
一関寺の農村景観保存調査報告書	一関市	一関市	平成19年3月31日
ゼンリンの住宅地図別府市	善隣出版社	善隣出版社	昭和29年
ゼンリンの住宅地図別府市	善隣出版社	善隣出版社	昭和36年
ゼンリンの住宅地図別府市	善隣出版社	善隣出版社	昭和40年－昭和58年
ゼンリンの住宅地図別府市	ゼンリン	ゼンリン	昭和58－平成20年

(6) 土地利用実態調査

目的： 土地利用実態調査による鉄輪温泉地区、明礬温泉地区の景観特性の把握

日時： 平成20年12月8日～平成20年12月22日（全5回）

場所： 鉄輪温泉地区、明礬温泉地区

内容： 当該地域の地番・地目データにより、23の地目のうち対象エリア存在する13の地目を細分化し、24の土地利用項目を設定した。一筆に対応する土地がどのように利用されているか調査を行った。

(7) 抽出要素の分布調査

- 目的： 抽出要素の分布調査による鉄輪温泉地区、明礬温泉地区の景観特製の把握
- 日時： 平成20年12月1日～平成20年12月22日（全6回）
- 場所： 鉄輪温泉地区、明礬温泉地区
- 内容： 本調査によって今後重要文化的景観構成要素となり得ると選定された要素（全96要素）の分布調査を行った。

(8) 研究者シャレット（重要文化的景観としての構成要素選定）

〈研究者による好まれる景観の抽出〉

- 目的： アンケート調査、タウンウォッチングにて挙げられなかった、その他の好まれる景観を研究者の立場から抽出する。
- 日時： 平成20年12月1日（月）10：00～12：00、11月17日（月）10：00～12：00
- 場所： 鉄輪温泉地区、明礬温泉地区
- 参加人数： 7、8名

〈研究者シャレット〉

- 目的： 鉄輪、明礬温泉地区のタウンウォッチングとアンケート調査、ワークショップを通して抽出された54要素と、並行して実施された歴史調査により抽出された60要素をもとに今後重要文化的景観構成要素となり得る要素の選定作業を行う。
- 日時： 平成21年2月3日、4日
- スタッフ数： 9名
- 内容： 全114要素の写真と、当該要素の歴史性を一件ずつ判断し、以下の2つの価値（①「住民の生活・生業に関係している」、②「当該地域の歴史を示す上で重要である」）のいずれかを有するものを重要な景観構成要素として選出した。
- また、現状のままでは重要な文化的景観構成要素とは言い難いが、③「今後改善・活用の必要がある」として挙げられた要素もあり、今後の保存活動の在り方によっては保存対象となり得ると考えられる要素として選出した。

第2節 住民による対象地域の景観認知

1 調査の内容

(1) アンケート調査

〈鉄輪温泉地区〉

目的： 住民の視点から鉄輪温泉地区の景観と景観構成要素についての評価を行う。

配布方法： 自治会単位で市報にアンケートを折り込み配布。対象地区外に在住している地権者については郵送。配布数は1世帯に1部。配布後約1か月でアンケートを回収。

期間： 平成18年8月8日～平成18年9月8日

対象者： 鉄輪温泉地区住民

配布結果： 配布数532部のうち100部が回収され、アンケート回収率は18.8%となった。

内容： 「問ア 住民の属性について」、「問イ 住んでいる住居について」、「問ウ 自治会・地域団体について」、「問エ 鉄輪の景観や街並みについて」、「問オ 今後の鉄輪について」、「問カ 住民が選ぶ鉄輪の良い景観・悪い景観について」の6つで構成されている。

〈明礬温泉地区〉

目的： 住民の視点から明礬温泉地区の景観と景観構成要素についての評価を行う。

配布方法： 調査対象地域内に在住の住民に自治委員を通して配布。配布数は1世帯に1部。

期間： 平成20年7月1日～平成20年9月30日

対象者： 明礬温泉地区住民

配布結果： 配布数42部のうち23部が回収され、アンケート回収率は55%となった。

内容： 「問ア 回答者について」、「問イ 景観について」、「問ウ 今後の展望」の3つで構成されている。

(2) ワークショップ

〈鉄輪温泉地区〉

グループごとに鉄輪温泉地区に分布している要素の抽出と、改善すべき課題等を整理した。また、タウンウォッチングで抽出された鉄輪にふさわしい要素や、ふさわしくない要素として抽出された要素について改めて意見交換を行い、各グループ内（3グループ）で考えられる鉄輪温泉地区らしい景観構成要素を抽出した。



図10.2.1 鉄輪ワークショップ風景写真

〈明礬温泉地区〉

外来者と住民に明礬温泉地区にふさわしいと評価された要素が、重要な景観構成要素になり得る要素であるか検証するために、参加者である明礬地区住民を4グループに分け、各グループで事前に準備した明礬の景観を構成している要素の写真を提示し、タウンウォッチングとアンケートの結果をもとに抽出された景観構成要素について、その要素が明礬の歴史・文化にどのように関係している要素であるか評価をグループごとで話し合った。評価したグループの数を得票数としてカウントすることで、住民の景観構成要素の評価の傾向をみた。



図10.2.2 明礬ワークショップ風景写真

2 調査結果

(1) 鉄輪温泉地区のアンケート調査の結果

ア 住民の属性について

a. 性別・年齢別にみたアンケート回答者数

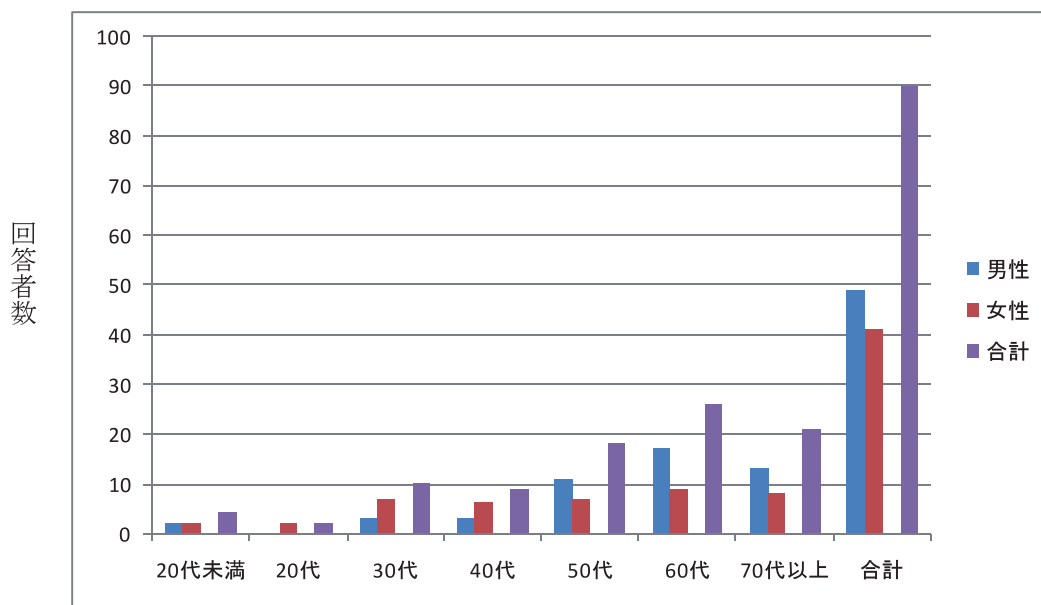


図10.2.3 性別・年齢別にみたアンケート回答者数

回答者の年齢構成は、60代以上の回答者が52%を占めており、うち「60代・男性」の回答者が最も多いことがわかる。

また、40代までの回答者は女性の割合が多く、50代以上の回答者は男性の割合が多い。

イ 鉄輪温泉地区の景観や街並みについて

a. 鉄輪温泉地区の景観・道路整備計画への関心度

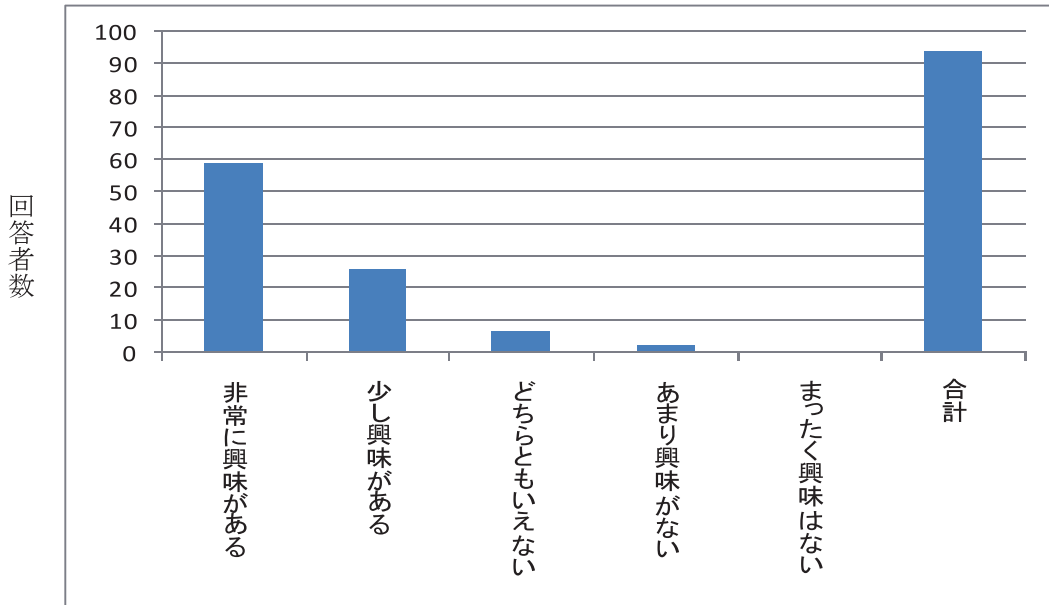


図10.2.4 景観・道路整備計画への関心度

年齢別の鉄輪温泉地区の景観と道路整備計画に対する興味の度合いを比較する。

鉄輪温泉地区の景観に対する興味の度合いについては、30代と60代の回答者は鉄輪温泉地区の景観に対し興味を持っているが、20代未満と40代の回答者は興味を持っていないことがわかった。

b. 鉄輪温泉地区の景観の印象

鉄輪温泉地区の景観の印象については、景観に興味がある人が大きく評価した印象は、「こぢんまりとした」、「暖かい」、「平靜的な」、「活気のない」という項目であった。

景観への興味の度合いにかかわらず評価がほぼ一致している評価は「特徴のある」、「さびしい」といった項目であった。

また、景観に興味がない人のグラフは全体的に左よりであり、景観に興味がない人よりも鉄輪の景観に対して低い評価をしているということがわかる。

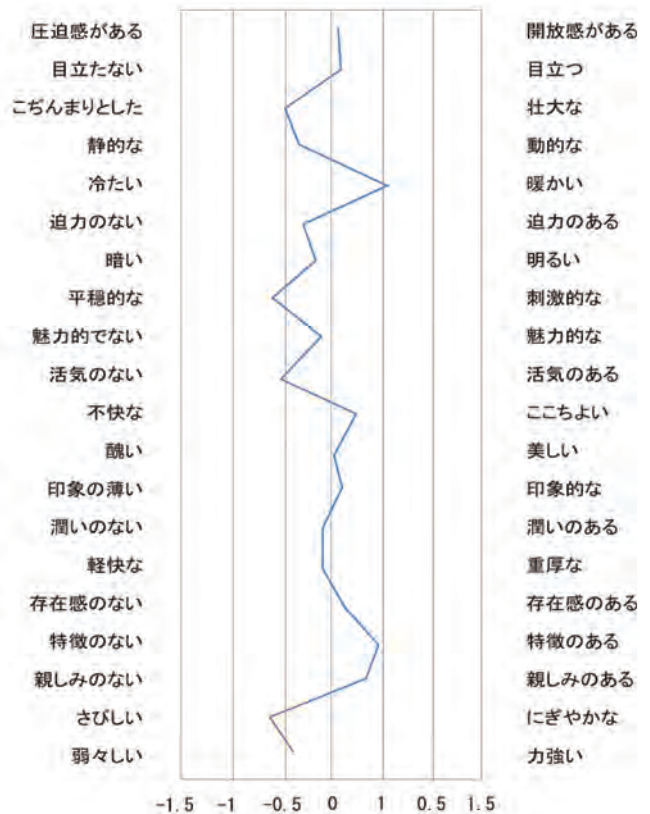


図10.2.5 鉄輪温泉地区の景観の印象

c. 鉄輪温泉地区にふさわしい要素

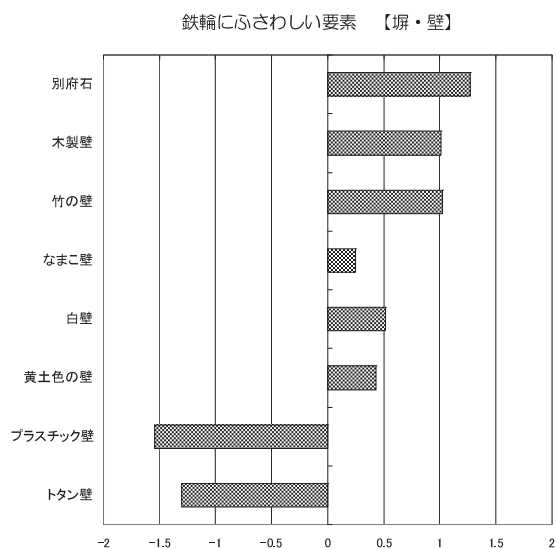


図10.2.6 鉄輪にふさわしい要素①

【塀・壁】

塀や壁については、別府石が最も鉄輪にふさわしいとされ、つづいて木製壁と竹の壁もふさわしい要素に選ばれている。

最も回答者の支持を得ることができなかったものはプラスチック壁であり、つづいてトタン壁もふさわしくない要素であるという結果が出ている。

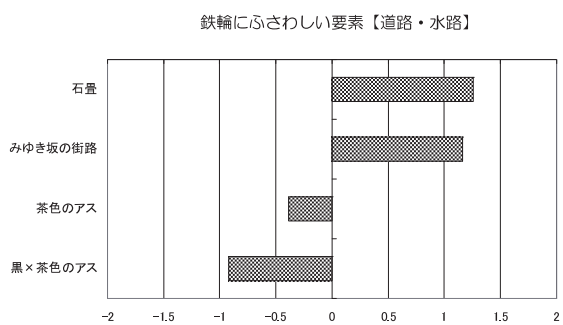


図10.2.7 鉄輪にふさわしい要素②

【道路・水路】

道路や水路については、石畳が最も鉄輪にふさわしいとされ、みゆき坂の街路も石畳とほぼ同数の支持を得ている。

最も支持を得ることができなかった黒×茶色のアスファルトについては現在まちづくり交付金事業によって修景が行なわれている。

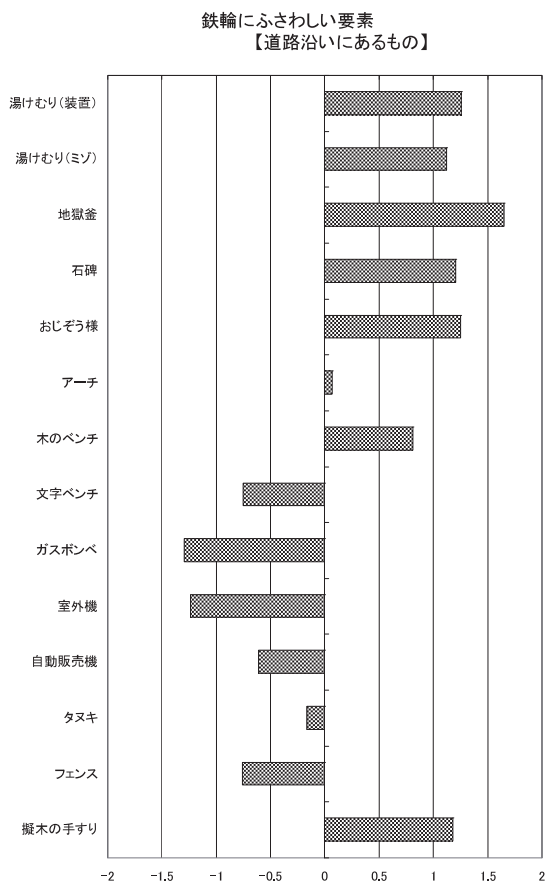


図10.2.8 鉄輪にふさわしい要素③

【道路沿いにあるもの】

道路沿いにあるものについては、地獄釜がもっとも鉄輪にふさわしい要素に選ばれている。地獄釜と同様に湯けむりに関連する要素である、装置からの湯けむりと、ミゾからの湯けむりも高い評価を得ている。湯けむりに関連する要素以外で評価が高いのが、石碑とお地蔵様であった。

最も鉄輪にふさわしくないと評価されているのがガスボンベであり、つづいて室外機の評価が低かった。

木のベンチは文字付のベンチに比べて評価が高い。

また、擬木の手すりも評価が高く、鉄製のフェンスよりも鉄輪にふさわしいという評価を得ていることがわかる。

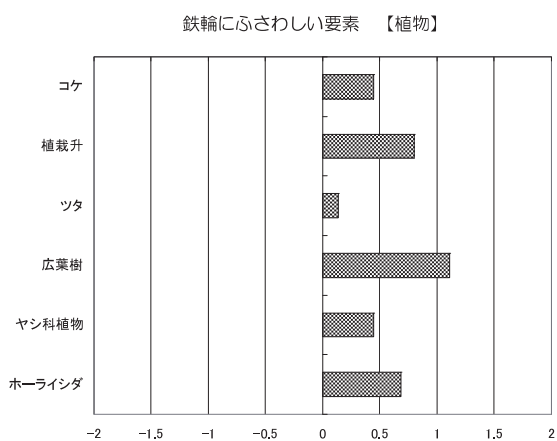


図10.2.9 鉄輪にふさわしい要素④

【植物】

植物についてはすべての要素が比較的良い評価を得ているが、中でも広葉樹と植栽升が鉄輪にふさわしい要素であると評価されている。

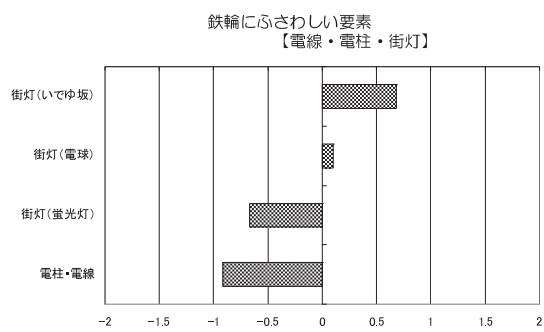


図10.2.10 鉄輪にふさわしい要素⑤

【電線・電柱・街灯】

電線・電柱・街灯については、いでゆ坂の街灯が最も鉄輪にふさわしいとされ、電柱・電線、蛍光灯型の街灯については鉄輪にふさわしくない要素であると評価されている。

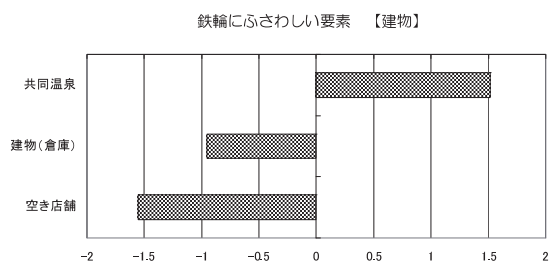


図10.2.11 鉄輪にふさわしい要素⑥

【建物】

建物については、共同温泉の評価が非常に高く鉄輪にふさわしい要素であると評価されていることが分かる。倉庫型の建物と空き店舗は評価が低く、鉄輪にふさわしくない要素であると評価されている。

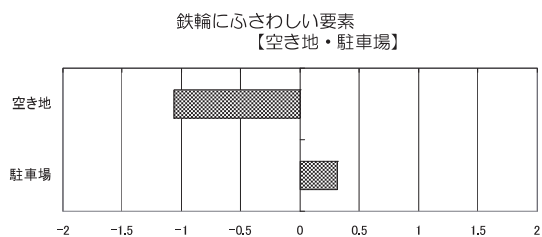


図10.2.12 鉄輪にふさわしい要素⑦

【空き地・駐車場】

空き地・駐車場については、空き地の評価が低く、鉄輪にふさわしくない要素であると評価されている。

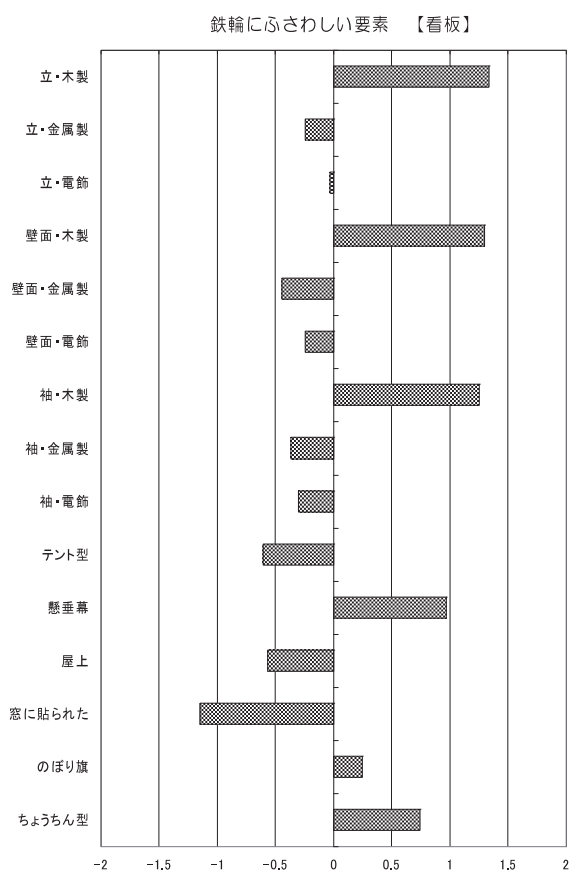


図10.2.13 鉄輪にふさわしい要素⑧

【看板】

看板については、木製で作られた看板は種類にかかわらず鉄輪にふさわしい要素であると評価されている。また懸垂幕も評価が高い。

窓に貼られた看板は評価が低く、鉄輪にふさわしくない看板であると評価されている。

良いと感じる景観については、高台から鉄輪を見渡すことのできる、九林プリンス横からの景観を選ぶ回答者が最も多く、続いて九州横断道路から山を望んだ風景も多かった。

他にも鉄輪地区の主なおりであるいでゆ坂の風景や、近年改修工事が行なわれたむし湯を眺めた風景と答えた回答者も多かった。

(2) 明礬温泉地区のアンケート調査の結果

ア 回答者について

a. 性別、年齢について

回答者の年齢は60代以上の回答者が77%を占めており、うち、「70代女性」の回答者が一番多くみられた。20代未満の回答者は今回おらず、30代、40代、50代の回答者も60代、70代に比べ少ないことがわかる。

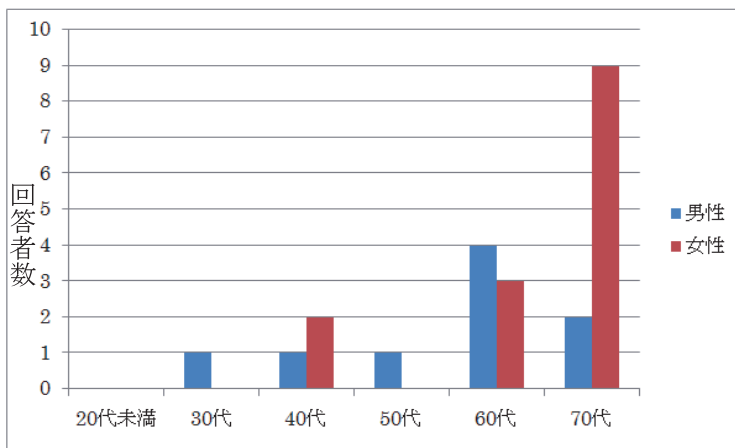


図10.2.14 性別、年齢について

イ 明礬温泉地区の景観や街並みについて

a. 明礬温泉地区の景観や街並みへの関心度

住民の明礬温泉地区の景観や街並みへの関心についての問いに対して「非常に関心がある」と回答した住民が一番多く、次いで「少し関心がある」が続き、関心の度合いが減少するに従い回答数も減少している。また「まったく関心はない」と答えた回答者がいなかったことも特徴的である。これらは住民の明礬温泉地区の景観や街並みに対する関心の高さの表れであると言える。

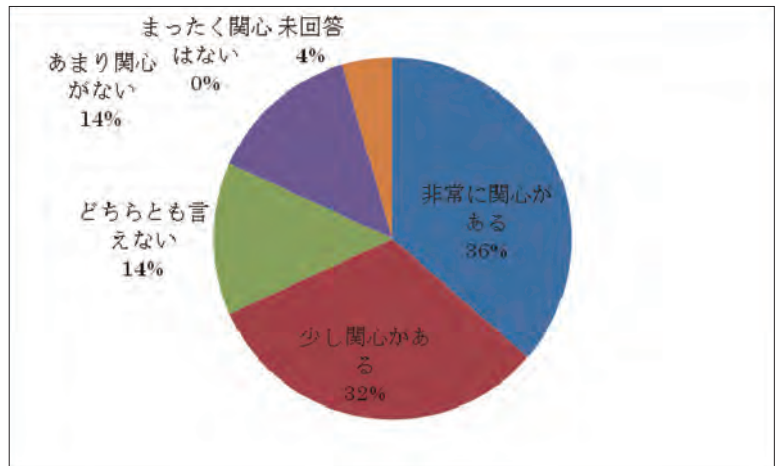


図10.2.15 景観や街並みへの関心度

b. 美観維持のための活動

美観維持の活動を行っているか、という問いに対して69%の回答者が活動を行っている」と回答した。内訳は「清掃活動」が46%と一番多く、次に「壊れた公共物の修繕」が7%、「街歩き（ガイド）」「整備用の寄付・募金活動」がそれぞれ4%と続く。

これらの結果から観光の為だけでなく住民の生活に根付いた活動である「清掃活動」を中心として、明礬温泉地区では多くの住民が美観維持のために活動していることがわかる。

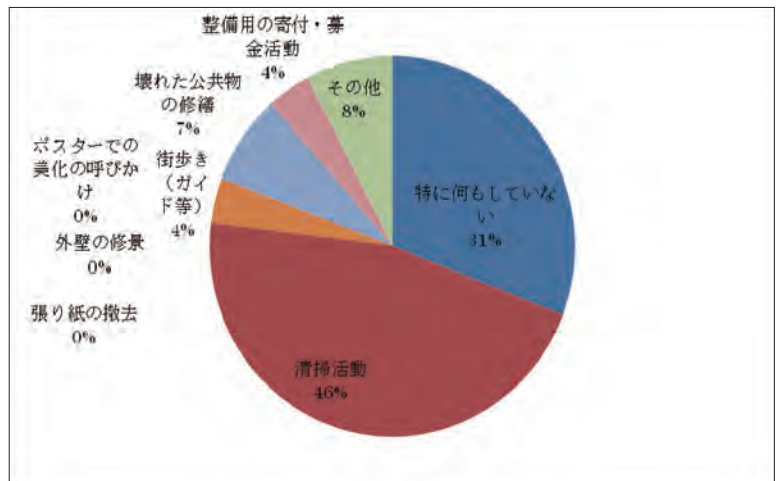


図10.2.16 美観維持活動について

c. 明礬温泉地区のイメージ

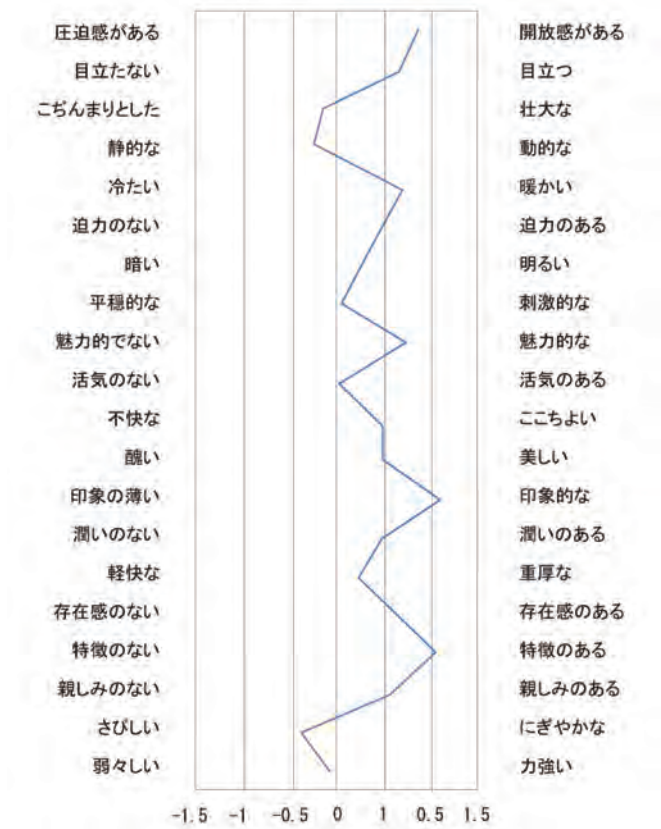


図10.2.17 明礬温泉地区のイメージ

住民の明礬地区の景観の印象については、全体的にプラスイメージの評価に偏っており「印象的な」、「特徴のある」といったイメージに対しての評価が多かった。マイナスイメージへの偏りは少ないものの、「こぢんまりとした」、「静的な」「さびしい」というイメージに対しての評価がみられた。

d. 総合的な明礬地区のイメージ

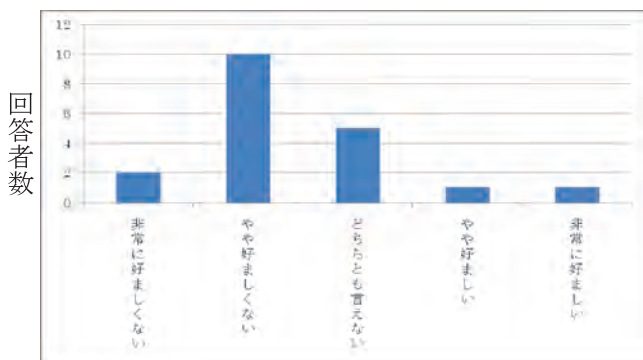


図10.2.18 総合的な明礬温泉地区のイメージ

住民の総合的な明礬温泉地区のイメージは「やや好ましくない」という回答が一番多くみられた。それ以外は「どちらともいえない」を除いてほぼ同じ回答数となった。

e. 明礬温泉地区にふさわしい要素

明礬温泉地区の各景観構成要素の評価は、悪い印象を受けると評価された要素が無く、すべての要素が好印象を得ていることが分かる。

f. その他住民から挙げられた要素

外来者タウンウォッチングで挙げられた要素の他に住民の意見からの景観構成要素の抽出を行うために住民に明礬温泉地区に存在する景観構成要素を挙げてもらった。

お滝（八十八か所）
 別府リハビリセンターの桜並木
 鍋山の湯
 へびの湯

図10.2.20

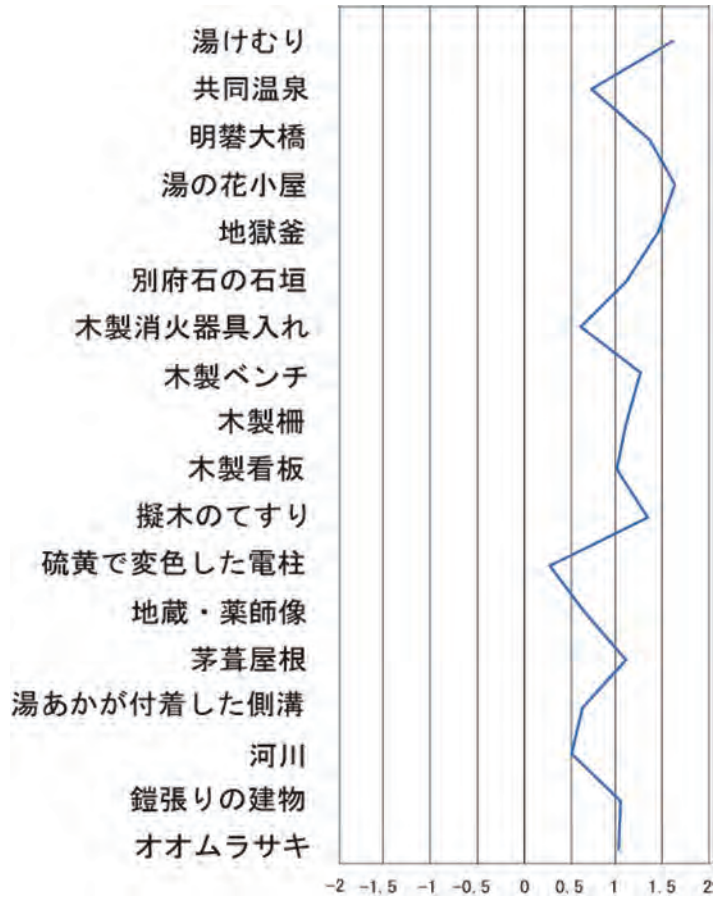


図10.2.19 明礬温泉地区にふさわしい要素

(3) 明礬温泉地区のワークショップの結果

調査の結果、明礬温泉地区の歴史、文化に関係のある景観構成要素として一番多く議題にのぼっていたのが「湯の花小屋」であった。その他には、明礬温泉地区の共同温泉である「神井泉」「鶴寿泉」や「側溝・パイプからの湯けむり」「瀧蒸浴場施設記念碑」が全グループにおいて明礬の歴史文化に関係している要素として選ばれた。

観光客に向けた明礬のイメージとして定着している「湯の花小屋」、「湯けむり」に加え、地元の組合員しか入浴できない「共同温泉」やこの地区の住民が生業としている「旅館」、観光客を対象とした「商店」など住民の暮らしに関係している要素への評価が高かった。その他には人の手を介さずに自然に道路沿いから湧き出ている「湯けむり」、明礬の歴史に関係のある「瀧蒸浴場施設記念碑」などにも評価が集まった。観光用に用意された「擬木の手すり」、「木製柵」、「木製看板」、「木製ベンチ」、「のぼり」は評価が得られなかった（表10.2.1）。

現在の地獄釜は個人で所有しており、誰でも自由には使えないが、昔は地区の皆で共有しており、食材を持ち寄り住民同士のいこいの場になっていたという。

外来者を対象とした調査では挙げられなかった「旅館」が新たに景観構成要素として挙げられた。これは「旅館」が明礬温泉地区の生活や生業に深く関係しているため、当該地区の歴史や景観に重要な役割を担っていると捉えられていることに起因している。

表10.2.1 明礬温泉地区ワークショップにおいて抽出された要素

景観群の解釈	カテゴリー	要素	選定理由	
自然要素	湯けむり	湯けむり	自然に地面から出てきていることが良い	
			色の特殊性、成分の濃さ	
			黄色が特殊で明礬らしい	
			自然に出てきているところが良い	
人工要素	共同温泉	神井泉	未記入	
			昔からどこもかしこも出ている	
			明礬らしい	
			車や道標等、どこからでもでているのは明礬らしい	
	共同温泉	鶴寿泉	昔は冬あった、昔は周りが旅館	
			昔からある、建物の釘を使用していない、住民自ら修理出来るよう作りを簡単にしている	
			家のお風呂が無かった時は音が来っていた	
			組合員以外に入れないというのが特徴的、八軒湯	
	共同温泉	とびの湯	昔はもっと大きかった	
			明礬特有の硫黄の濃さでお賽銭の10円玉が錆びる	
			家のお風呂のかわりに使っていた	
			女性が肌をきれいにするために入っていた、湯を飲むと胃腸に効く	
	共同温泉	地蔵泉	浴槽がきれい、建物は新しい、湯が透明できれい	
			昔はロシア人が来ていた	
			鳥の「産」に由来している(伝説?おとき話?)	
			家のお風呂のかわりに使っていた	
湯の花小屋	湯の花小屋	皮膚病に効く、湯が詰まって閉鎖		
		一番古い		
		家のお風呂のかわりに使っていた		
		明礬地区に溶け込んでいる		
		明礬地区に溶け込んでいる		
		これが無くては明礬ではない		
		他の土地には無い		
		歴史がある		
		宿泊施設	岡本屋旅館	建物が古い
				明礬に欠かせない(旅館全体に対して)
				火車の前と同じ建物
				明礬に欠かせない(旅館として)
店舗	山田屋旅館	明礬に欠かせない(旅館として)		
		明礬に欠かせない(旅館として)		
店舗	岡本屋売店	特産品の販売(明礬地区特有)		
		特産品の販売(明礬地区特有)		
石碑	湯の花製塩所記念碑	たきゆの跡の石塔		
		湯湯のあと 硫黄と蒸湯の歴史を物語る		
石碑	別府石の石垣	岡本屋さんが詳しい		
		硫黄の石垣、古い		
地獄釜	地獄釜	未記入		
		大正時代からある、一番古いのでは		
その他	湯の花製造所の門	昔は皆で共有していた		
		昔からいろんなところがあり、ここで人々が交流していた		
		古い		
		大正・明治頃からある		
		硫黄で錆びた電柱		
		明礬ならではの		
その他	木製電柱	普通の電柱はコンクリートだから		
		錆はたくさんあった		
		昔はたくさんあった		
		焼き杉張り・錆張り		
その他	明礬大橋	硫黄で錆びてしまつたので釘を使っていない(神井泉)		
		明礬の象徴		

3 好まれる景観と注意すべき景観

アンケートの結果、「好まれる景観」として鉄輪温泉地区38シーン、明礬温泉地区12シーン、「注意すべき景観」として鉄輪温泉地区24シーン、明礬温泉地区9シーンを得た。

また、明礬温泉地区においてはアンケートの配布枚数が鉄輪温泉地区に比べて少ないためワークショップを実施したが、その結果として「好まれる景観」として明礬温泉地区5シーンを得た。以下に「好まれる景観」と「注意すべき景観」の分布と回答数を表したバブルマップを示す(図10.2.21~10.2.25)。また、集計結果を「アンケート集計結果」「ワークショップ集計結果」として、付録に掲載する。

〈鉄輪温泉地区〉

好まれる景観として最も多く挙げられたものは、九林プリンスの付近から鉄輪温泉地区全体を見下ろすような景観となっている。続いて、熱の湯通りの石畳をみる景観、西福寺上の県道218号線から扇山や湯けむりをみる景観となっている。全体的に見てみると主に、九州横断道路沿いや九林プリンスなどの鉄輪温泉地区を見渡せる県道218号線沿い、鉄輪温泉地区を横断しているいでゆ坂やみゆき坂沿い、むし湯を中心としたエリアといったところに回答が見られる。

また、注意すべき景観として最も多く挙げられたものは、錆びた鉄骨の建物であった。

全体的に見ると、好まれる景観のような道路沿いから鉄輪温泉地区全体を見渡せるようなエリアではなく、細い路地などからの街路景観などが多く挙げられている。

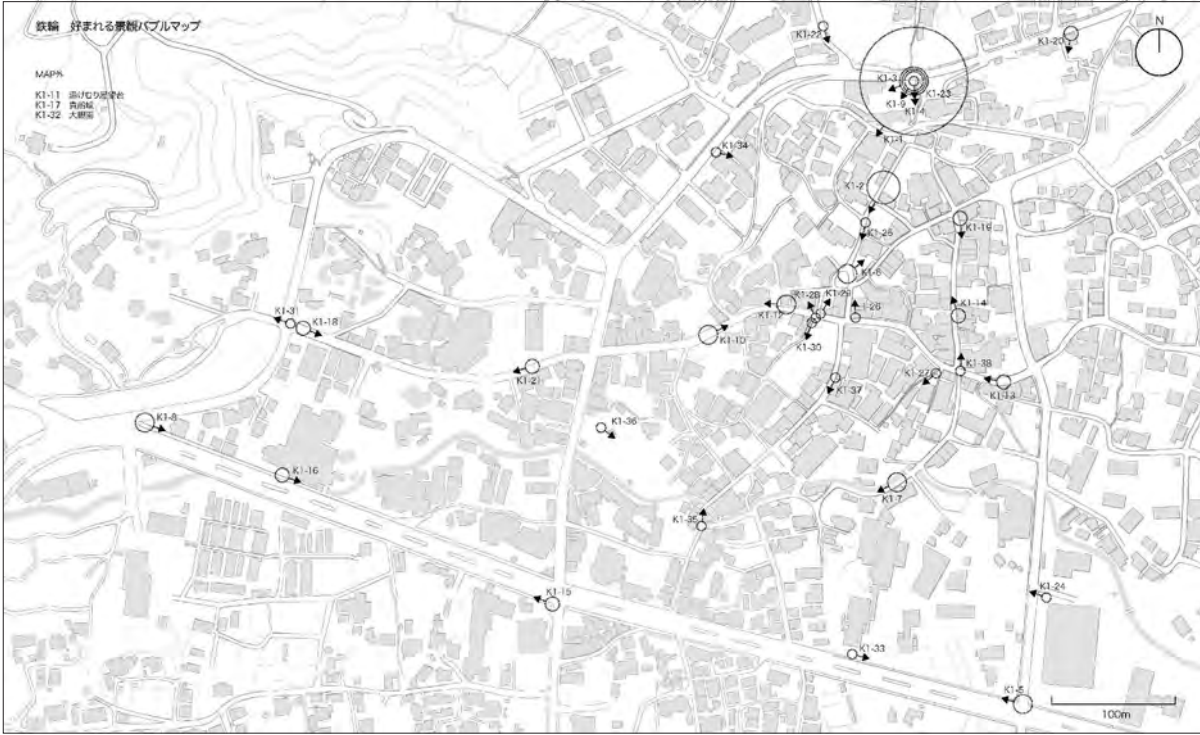


図10.21 アンケート 好まれる景観 バブルマップ [鉄輪温泉地区]



図10.22 アンケート 注意すべき景観 バブルマップ [鉄輪温泉地区]

〈明礬温泉地区〉

好まれる景観として最も多く挙げられたものは、山の湯付近からの眺望景観となっている。

続いて岡本屋売店付近から別府湾の方向を見た眺望景観、同じく岡本屋売店付近から湯の花小屋や湯けむりをみた景観となっている。

全体的に見ると、山の湯付近、湯の里付近や岡本屋売店付近などの明礬温泉地区全体を見渡す景観が多く挙げられている。注意すべき景観として最も多く挙げられたものは、明礬入り口付近の荒れた農地であった。

全体的に見ると、鉄輪温泉地区と同様に明礬温泉地区全体を見渡せるようなエリアではなく、細い路地などからの街路景観などが多く挙げられている。

また、ワークショップにおいては、お滝、とびの湯、蛇湯、地藏泉、地獄釜といった温泉に関連し、かつこの明礬温泉地区の歴史と深く関わるものが挙げられた。



図10.2.23 アンケート 好まれる景観 バブルマップ [明礬温泉地区]



図10.2.24 アンケート 注意すべき景観 バブルマップ [明礬温泉地区]



図10.2.25 ワークショップ 好まれる景観 バブルマップ [明礬温泉地区]

第3節 外来者による対象地域の景観認知

1 タウンウォッチング調査の内容

〈鉄輪温泉地区〉

目的： 外来者の視点から、好まれる景観、注意すべき景観を抽出する。

日時： 平成20年12月5日（金）14：00～16：00

参加人数： 13名（大分大学13名）

スタッフ数： 4名

〈明礬温泉地区〉

目的： 外来者の視点から、特徴的な景観構成要素、好まれる景観、注意すべき景観を抽出する。

日時： 平成20年6月6日（金）14：00～16：00

参加人数： 15名（別府大学7名、APU2名、大分大学6名）

スタッフ数： 4名



図10.3.1 鉄輪タウンウォッチング風景



図10.3.2 明礬タウンウォッチング風景

2 タウンウォッチング調査の結果

〈鉄輪温泉地区〉

鉄輪温泉地区における、タウンウォッチングの結果、好まれる景観として47、注意すべき景観として38の回答を得た。

〈明礬温泉地区〉

明礬温泉地区におけるタウンウォッチングの結果、好まれる景観として81、注意すべき景観として45、明礬らしい景観構成要素として61の回答を得た。また、明礬温泉地区の景観のイメージアンケートでは15の有効回答を得た。

明礬温泉地区の景観のイメージアンケートの結果は、全体的にプラスイメージの回答者が多く、特に「暖かい」「魅力的な」「特徴のある」という項目が多く回答され、次いで「活気のある」「心地よい」「美しい」「印象的な」「親しみのある」という項目が多く回答された（図10.3.3）。

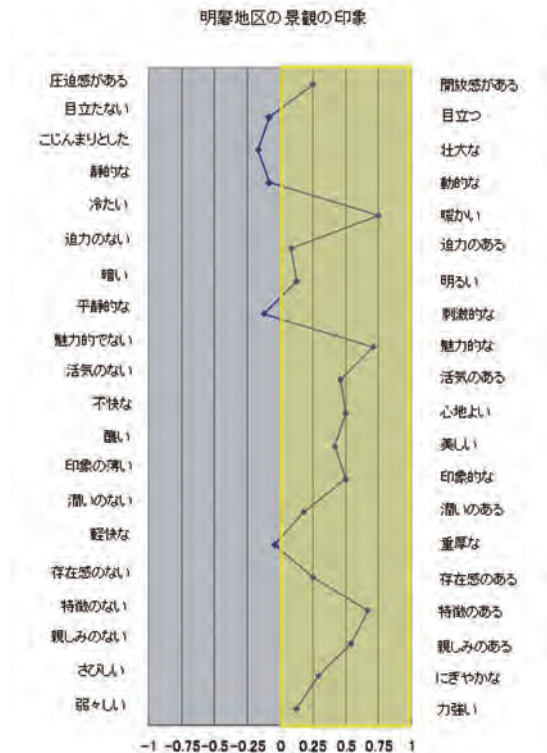


図10.3.3 明礬温泉地区の景観のイメージアンケート結果

3 好まれる景観と注意すべき景観

タウンウォッチングの結果、「好まれる景観」として鉄輪温泉地区29シーン、明礬温泉地区25シーン、「注意すべき景観」として鉄輪温泉地区21シーン、明礬温泉地区22シーンを得た。

以下に「好まれる景観」と「注意すべき景観」の分布と回答数を表したバブルマップを示す(図10.3.4～10.3.7)。

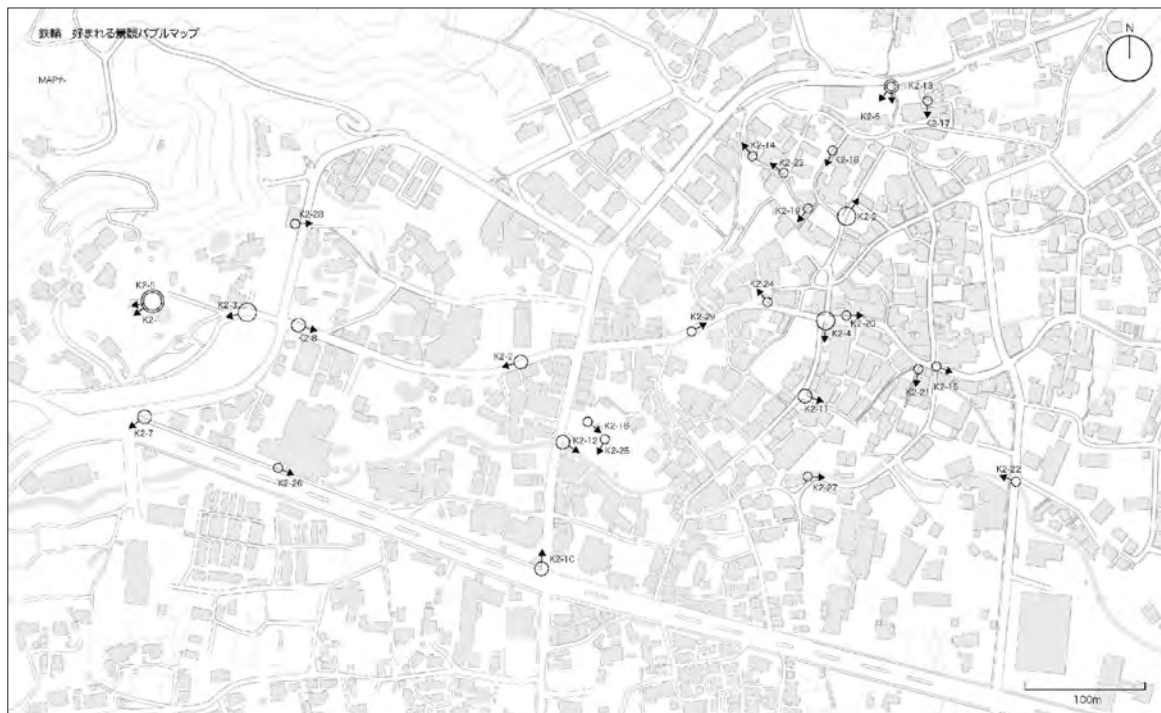


図10.3.4 タウンウォッチング 好まれる景観 バブルマップ [鉄輪温泉地区]

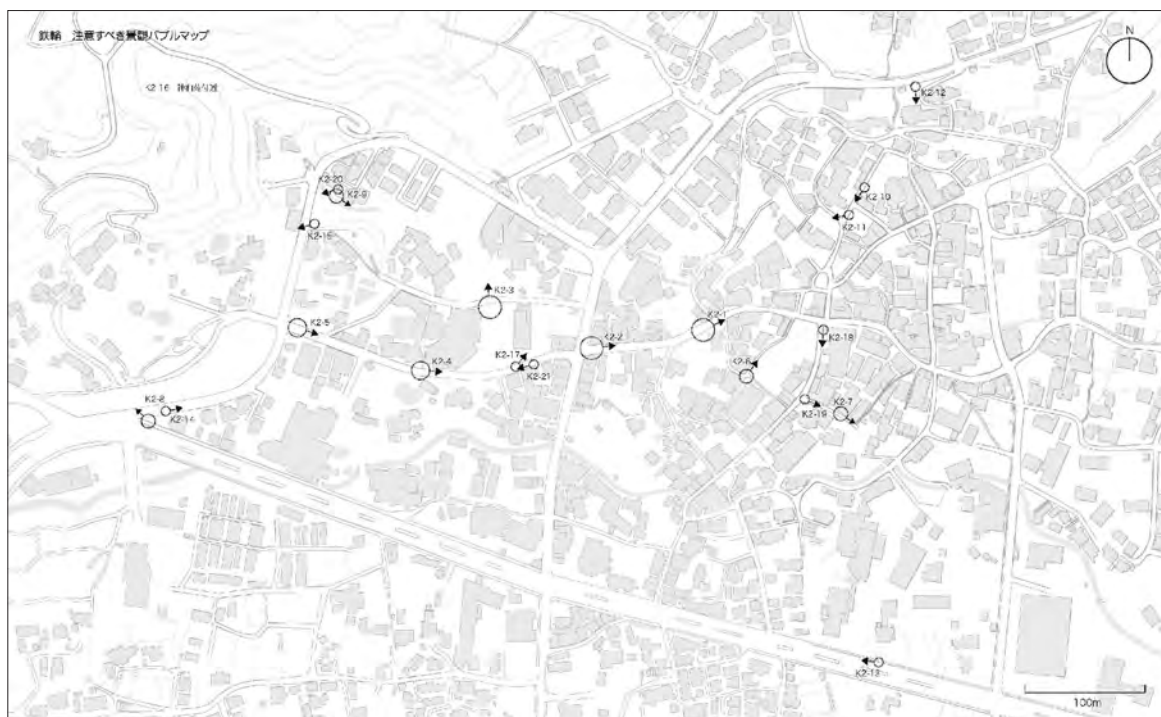


図10.3.5 タウンウォッチング 注意すべき景観 バブルマップ [鉄輪温泉地区]



図10.3.6 タウンウォッチング 好まれる景観 バブルマップ [明礬温泉地区]

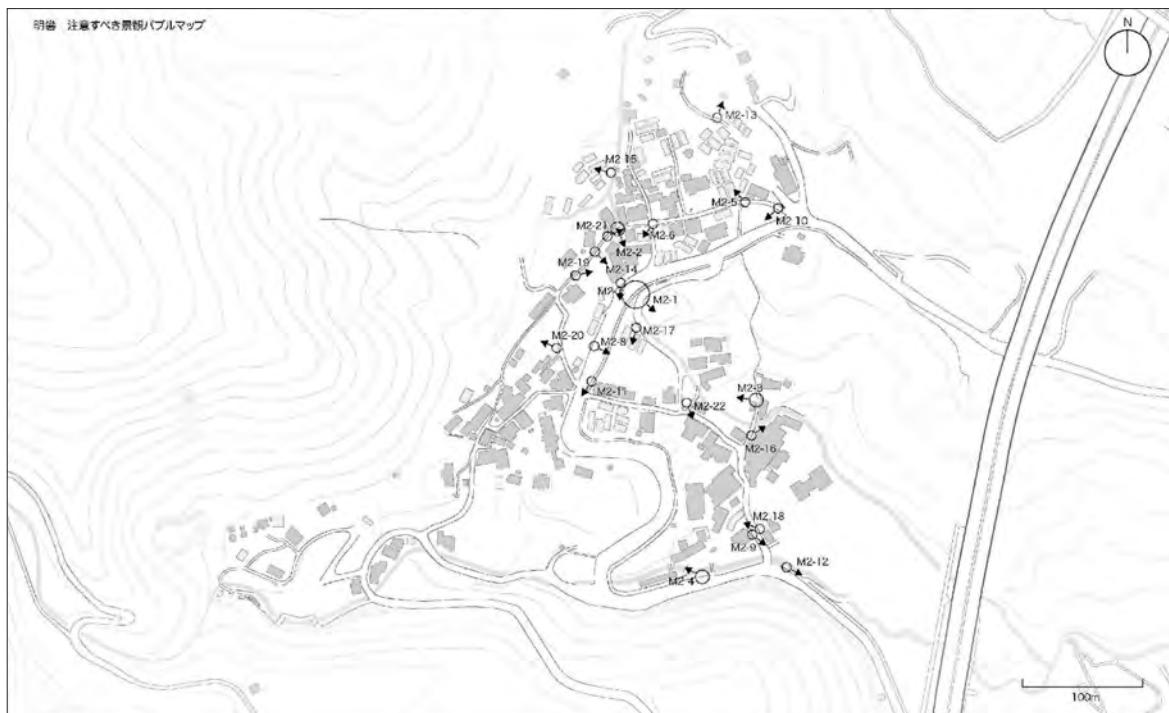


図10.3.7 タウンウォッチング 注意すべき景観 バブルマップ [明礬温泉地区]

4 研究者シャレット

住民アンケート、外来者タウンウォッチングにて挙げられなかった、その他の好まれる景観を研究者に挙げてもらい、その後研究者シャレットを行い選定した。

両地区において、研究者に2時間程度歩いてもらいながら、好まれる景観をそれぞれ挙げてもらい、「どこから」「何を見て」「選定した理由」に答えてもらったうえで、さらにその景観が見えるポイントを地図上にプロッ

トしてもらい、その景観の写真を撮影してもらった。その後、研究者シャレット（研究者内ワークショップ）を行い、住民アンケートと外来者タウンウォッチングにて挙げられなかったものの中から好まれる景観を選定した。その結果、「良い景観」として鉄輪温泉地区5シーン、明礬温泉地区8シーンを得た。

以下にシャレットの結果抽出されたシーンのバブルマップを示す（図10.3.8、図10.3.9）。

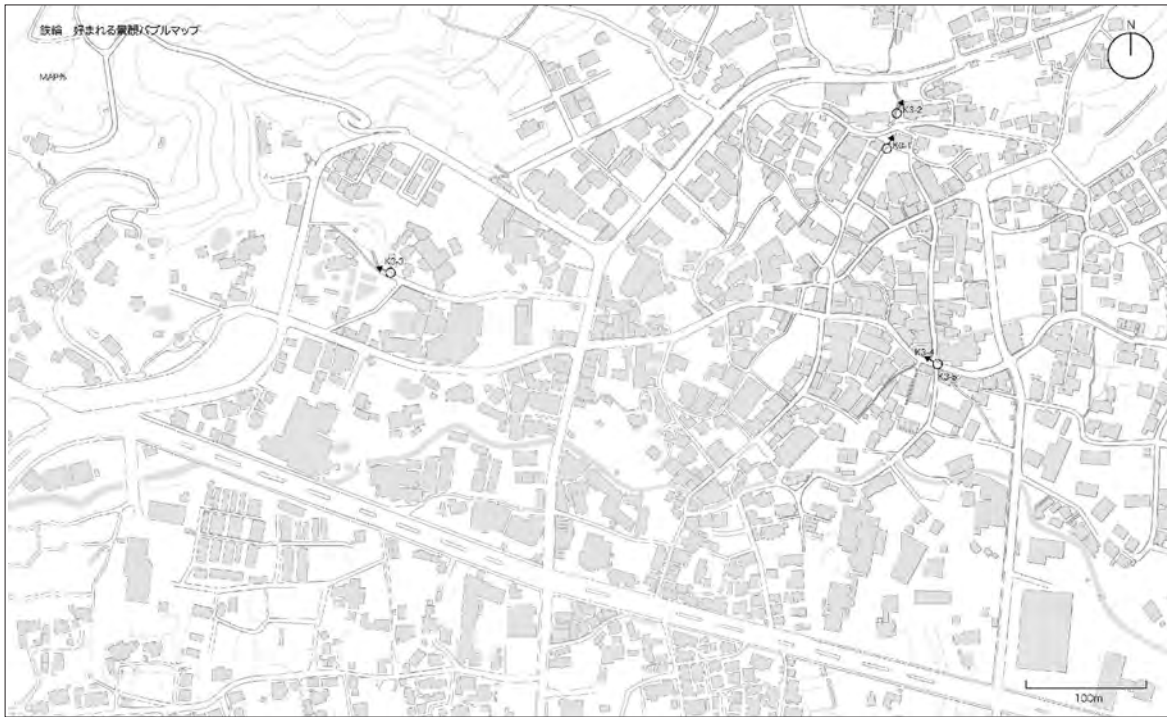


図10.3.8 研究者シャレット 好まれる景観 バブルマップ [鉄輪温泉地区]



図10.3.9 研究者シャレット 好まれる景観 バブルマップ [明礬温泉地区]

第4節 調査地域における選好景観の特性分析

1 選好景観の抽出と選好景観を構成する要素

(1) 抽出景観の回答記述中における景観構成要素の把握

住民アンケート、外来者タウンウォッチング、研究者シャレットにて抽出された好まれる景観中において、「何を見て」「選定した理由」で回答記述された景観構成要素を抽出した。

(2) 撮影画像中における景観構成要素の把握

撮影画像中において、鉄輪温泉地区において全72シーン、明礬温泉地区において全45シーン中の景観構成要素を抽出し、それらを大分類、中分類、小分類の3つのグループに分類した(表10.4.1)。景観構成要素の定義の一部を以下に示す。

2. 要素の組み合わせによる選好景観の類型化

(1) 類型1 [近距離街並み型]

「植物」、「低層建造物」が全シーンで、「道」「道路設備」「障壁」がほとんどのシーンでみられ、「市街地」「海」「半島」といった、遠距離によくみられる要素はすべてのシーンでみることができない。



図10.4.1 類型1の代表的なシーン

(2) 類型2 [近距離自然的郊外型]

「植物」「障壁」「河川」「温泉関連施設」といった、近距離かつ自然の多い村里のような景観でみられる要素が多くみられる。また、「市街地」「海」「半島」といった、遠距離によくみられる要素はすべてのシーンでみることができない。

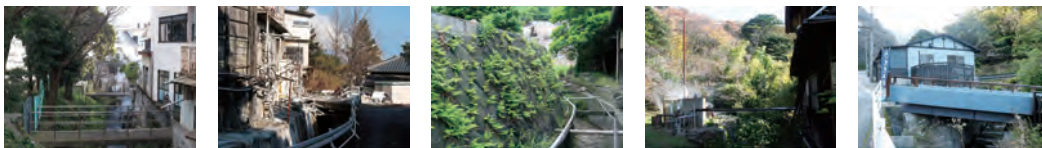


図10.4.2 類型2の代表的なシーン

表10.4.1 撮影画像中の景観構成要素

大分類	中分類	小分類		
自然	山地	山岳 丘		
	半島	半島		
	河川	河川		
	海	海		
	田畑	田畑		
	植物		森林 草木 植木鉢 生垣	
		自然現象	湯けむり	
		人工	市街地	市街地 夜景
			低層建造物	低層建造物
	中高層建造物		中高層建造物	
橋	橋			
広場	公園 広場			
空地	空き地 駐車場			
道			道路 石畳	
	道路設備			信号機 標識 ミラー 看板 のぼり 石碑 電柱 街灯 ベンチ 自動販売機 ポスト 公衆電話
温泉関連施設				湯の花小屋 配管 湯けむり装置
			障壁	
		乗り物		車両

(3) 類型3 [中遠距離山岳街並み型]

「山地」「市街地」といった、中遠距離でみられる要素が多くみられる。また、「海」「半島」といった、遠距離に出現する要素は全てのシーンでみることができない。



図10.4.3 類型3の代表的なシーン

(4) 類型4 [遠距離市街地展望型]

全てのシーンで、「半島」「海」といった遠距離で出現する要素がみられる。また、「市街地」「低層建造物」「中高層建造物」といった市街でよく出現する要素も多くのシーンでみられる。



図10.4.4 類型4の代表的なシーン

3 重要ゾーンの抽出

各シーンに含まれる「何を見て」「選定した理由」で回答記述された景観構成要素が1つでも1,000mより大きな値の遠距離景観または超遠距離景観となった、鉄輪温泉地区25シーン、明礬温泉地区12シーンについて、それらの視野範囲を地図上にプロットし、戦略的に保存すべき重要ゾーンを導出した。以下にそれらの写真の一部と重要ゾーンを示す(図10.4.5、図10.4.6)。

鉄輪温泉地区では主に九州横断道路沿いや洪の湯やむし湯のある付近が、明礬温泉地区では500号線山手の段畑や岡本屋旅館付近が主に可視頻度の高いゾーンとなっている。

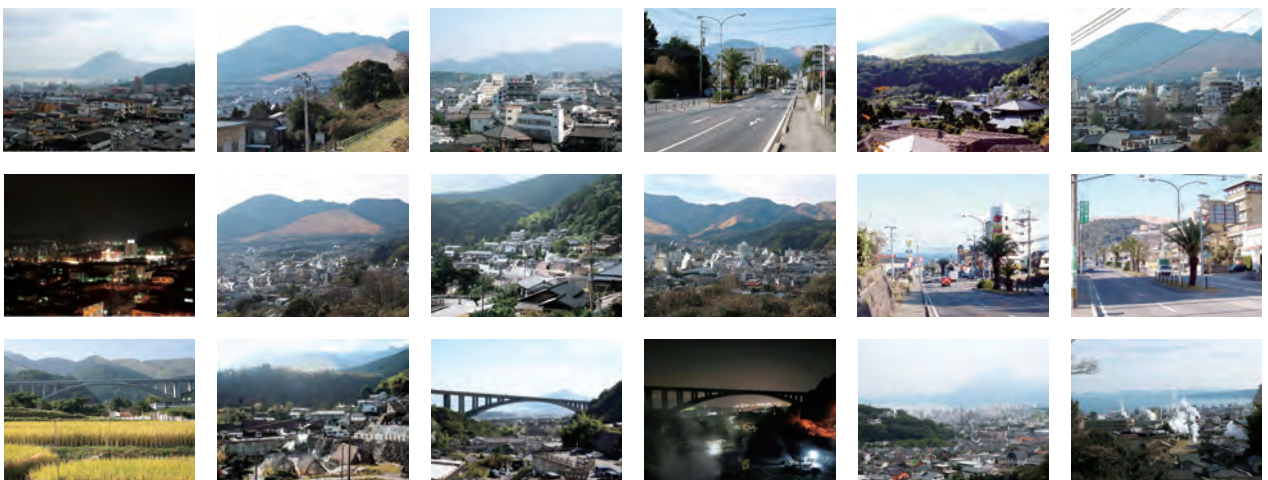


図10.4.1 抽出された景観シーンの例



図10.4.5 重要ゾーン [鉄輪温泉地区]

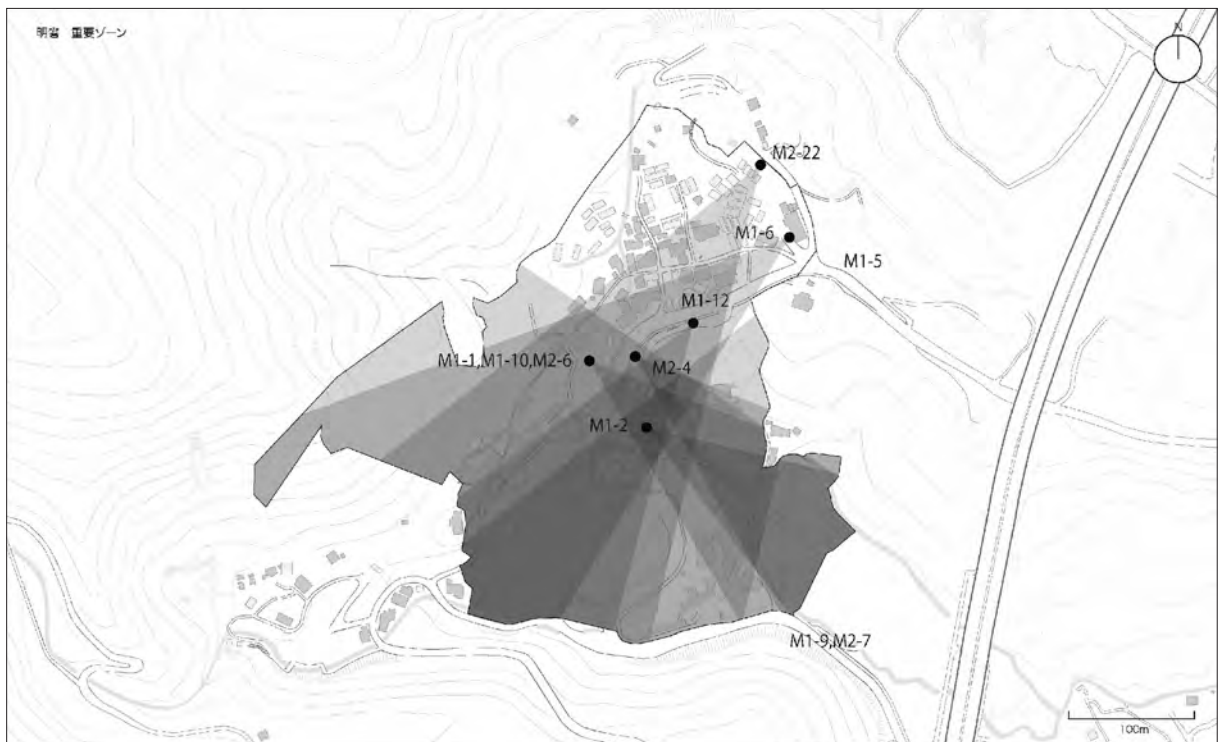


図10.4.6 重要ゾーン [明礬温泉地区]

第5節 古写真にみる対象地域の景観特性と景観重要地域

1 古写真と現況景観の抽出と概要

鉄輪温泉地区、明礬温泉地区における昔の景観と現在の景観を比較することで、両地区の景観の変遷を辿るため、両地区における昔の景観写真を書籍やポストカード等により抽出した。収集した古写真は鉄輪温泉地区で48枚、明礬温泉地区で43枚存在し、重複しているものを除き、抽出した古写真と同一の現況景観を撮影（以下現況写真とする）し、鉄輪温泉地区8シーン、明礬温泉地区13シーンを得た。以下に写真撮影の概要とそれぞれのシーンの撮影ポイントの地図を示す。

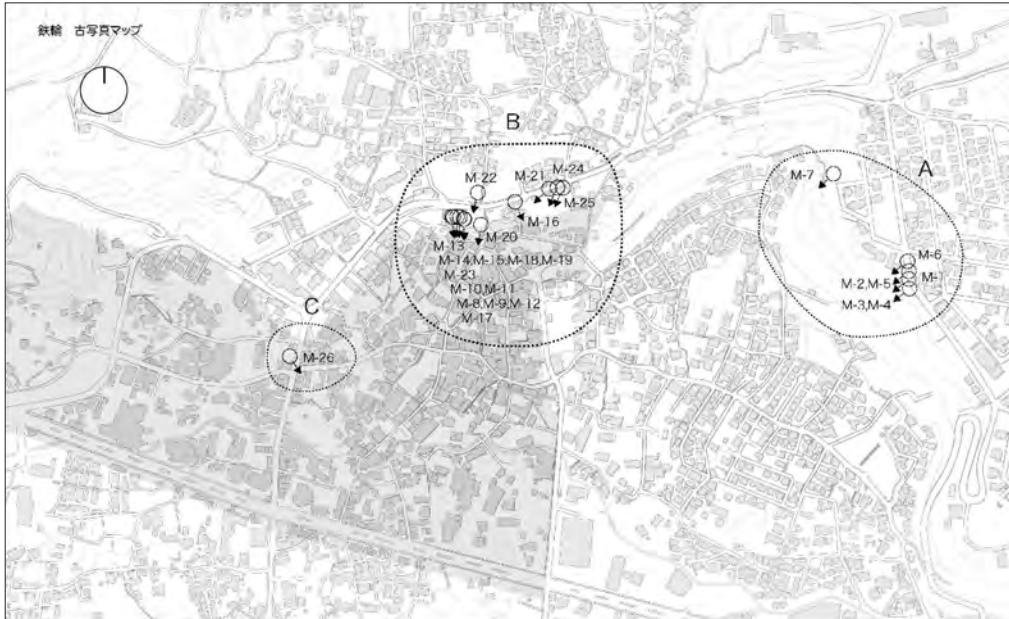


図10.5.1 現況写真撮影ポイント [鉄輪温泉地区]



図10.5.2 現況写真撮影ポイント [明礬温泉地区]

2 古写真の景観特性

(1) 古写真における景観構成要素の抽出

鉄輪温泉地区、明礬温泉地区における古写真を分析するため、両地区それぞれにおける古写真中の景観構成要素を抽出した。各景観構成要素数の計測方法として、全章で示した18の景観構成要素を用い、各画像中にこれらが出現する数を計測した。以下に古写真中に含まれる景観構成要素の割合を地区ごとに示す（表10.5.1、表10.5.2）。

表10.5.1 古写真中の景観構成要素
[鉄輪温泉地区]

要素名	数	全体に占める割合(%)
山地	102	17.56
半島	1	0.17
河川	0	0.00
海	1	0.17
田畑	18	3.10
植物	293	50.43
自然現象	81	13.94
市街地	17	2.93
低層建造物	2	0.34
中高層建造物	0	0.00
橋	0	0.00
広場	0	0.00
空地	0	0.00
道	6	1.03
道路設備	54	9.29
温泉関連施設	0	0.00
障壁	5	0.86
乗り物	1	0.17

表10.5.2 古写真中の景観構成要素
[明礬温泉地区]

要素名	数	全体に占める割合(%)
山地	23	2.96
半島	0	0.00
河川	1	0.13
海	0	0.00
田畑	6	0.77
植物	65	8.37
自然現象	69	8.88
市街地	0	0.00
低層建造物	207	26.64
中高層建造物	0	0.00
橋	0	0.00
広場	0	0.00
空地	4	0.51
道	21	2.70
道路設備	40	5.15
温泉関連施設	279	35.91
障壁	59	7.59
乗り物	3	0.39

(2) 現況景観における景観構成要素の抽出

鉄輪温泉地区、明礬温泉地区における現況写真を分析するため、両地区それぞれにおける現況写真中の景観構成要素を抽出した。現況写真として古写真同様、鉄輪温泉地区18シーン、明礬温泉地区11シーンの分析を行った。以下に現況写真中に含まれる景観構成要素の割合を地区ごとに示す（表10.5.3、表10.5.4）。

表10.5.3 現況写真中の景観構成要素
[鉄輪温泉地区]

要素名	数	全体に占める割合(%)
山地	101	7.95
半島	1	0.08
河川	0	0.00
海	1	0.08
田畑	1	0.08
植物	367	28.87
自然現象	352	27.69
市街地	17	1.34
低層建造物	4	0.31
中高層建造物	1	0.08
橋	2	0.16
広場	2	0.16
空地	5	0.39
道	7	0.55
道路設備	326	25.65
温泉関連施設	0	0.00
障壁	9	0.71
乗り物	75	5.90

表10.5.4 現況写真中の景観構成要素
[明礬温泉地区]

要素名	数	全体に占める割合(%)
山地	24	2.00
半島	0	0.00
河川	2	0.17
海	0	0.00
田畑	4	0.33
植物	178	14.85
自然現象	46	3.84
市街地	0	0.00
低層建造物	247	20.60
中高層建造物	3	0.25
橋	3	0.25
広場	0	0.00
空地	24	2.00
道	31	2.59
道路設備	253	21.10
温泉関連施設	112	9.34
障壁	183	15.26
乗り物	89	7.42

(3) 景観構成要素にみる景観の変容

鉄輪温泉地区、明礬温泉地区における景観の変容を辿るため、両地区における現況写真、古写真中の各景観構成要素の出現数を比較した。撮影ポイントごとに古写真、現況写真とともに分析結果としてK-1を例に示す。



図10.5.3 古写真 K-1b [昭和20年以前]



図10.5.4 現況写真 K-1a [平成20年]

「自然現象」は、K-1bでは坊主地獄等の地獄からのみ上がっているが、K-1aでは43箇所確認できる。また、「道路設備」、「乗り物」についても大きく増えている。「田畑」については数による差は僅か2箇所だが、画像占有率をみると、K-1bで16%、K-1aで0%と減少し、「市街地」が15%から60%へと大きく増加しているため、「田畑」から「市街地」へ変化したことがわかる。「市街地」に含まれる建造物の内訳をみると、「寄棟造（低層）」で19棟近く減少したが、「切妻造（低層）」で52棟増加している。「中高層建造物」においては、K-1bで確認できないが、K-1aでは計48棟、そのうち「陸屋根（中高層）」が42棟と最も多くなっている（図10.5.5～10.5.8）。

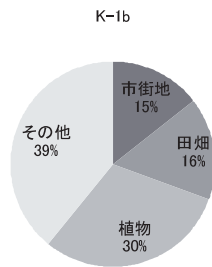


図10.5.5 面積割合

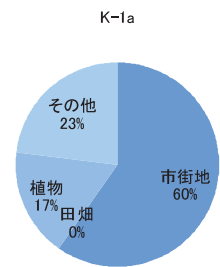


図10.5.6 面積割合

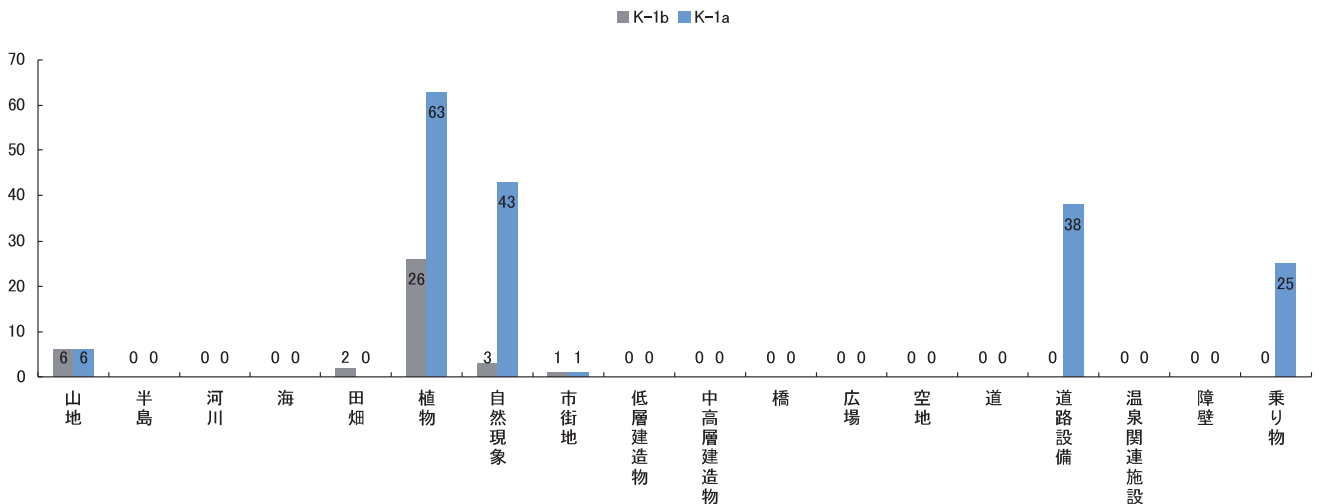


図10.5.7 画像中の景観構成要素数

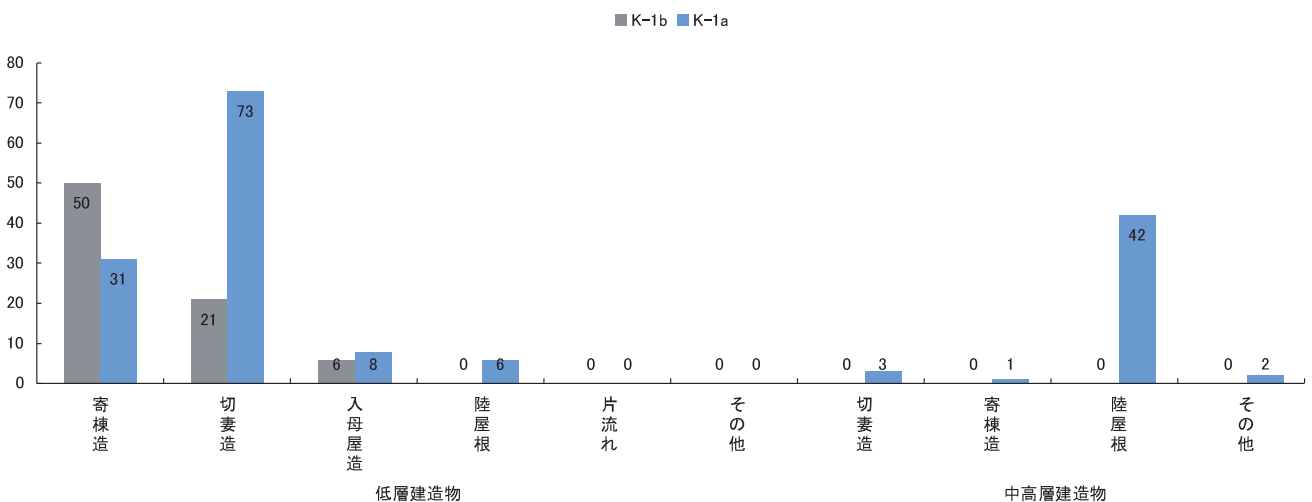


図10.5.8 「市街地」に含まれる建造物数

第6節 歴史変遷による景観の変容

1 原風景形成期間の抽出

(1) 鉄輪温泉地区の原風景の抽出

鉄輪温泉地区・明礬温泉地区の「原風景」抽出することは、目指すべき景観像を模索する際の有益な知見となり得る。ここでは、ヒアリング調査・文献調査・ワークショップにより、同地区の景観に変化を与えたと考えられる生活・生業に関連した歴史を抽出し、景観変容期間を整理する。また、抽出した景観変容期間のうち、同地区の重要文化的景観の根幹が築かれたと考えられる期間を「原風景形成期間」とし、「原風景」を抽出する。

さらに、空間利用の変遷を探ることにより、鉄輪温泉地区における重要文化的景観の変容プロセスを空間的に把握した。

- ①地区内の変遷を面的に明らかにした点
- ②古写真による調査を用い、ビジュアル的な変化を確認した上で変遷を明らかにした点

以上の2点から、「空間利用の変遷」は景観の変容と深く関わりがあると考えられる。そこで、整理した景観変容期間のうち、「空間利用の変遷」に変化が見られない景観変容期間、さらに「空間利用の変遷」の傾向から景観形成の発達、または衰退期間の途上段階であると判断した景観変容期間を再度整理し、最終的な景観変容期間を抽出した鉄輪温泉地区の景観変容期間の概要を表10.6.1に示す。

表10.6.1 鉄輪温泉地区の景観変容期間

期間	— 1909			1910 — 1949			1950 — 1972			1973 — 2001			2002 —																				
	共同温泉湯治場発達期			鉄輪湯けむり原風景形成期			鉄輪遠景景観形成期			鉄輪湯けむり原風景衰退期			湯けむり景観保存・模索期																				
鉄輪景観変容期間	地獄地帯荒野期	共同温泉湯治場形成期	湯治場戦乱衰退期	湯治場復興期	湯治場発達期	鉄輪湯けむり原風景形成期	戦争閉塞期	戦後湯治場復興期	鉄輪遠景景観形成期	まちなみ形成期	大型旅館新設期	鉄輪湯けむり原風景衰退期	住民まちづくり運動発達期	小規模旅館衰退期	湯けむり景観保存・模索期																		
map	①			②			③			④			⑤			⑥			⑦			⑧			⑨			⑩			⑪		

鉄輪温泉地区では最終的に5つの景観変容期間を抽出した。うち、明治43年(1910)～昭和47年(1972)を「鉄輪湯けむり原風景形成期」とし、原風景期として抽出した。

(2) 鉄輪温泉地区の原風景

鉄輪温泉地区における原風景形成期間(1910～1972)に撮影された古写真を提示し、原風景の特徴を述べる。

鉄輪温泉地区の景観を創出する重要な景観構成要素として、まず湯けむりが挙げられるが、図10.6.1を見ると、現在の遠景景観と比べ、湯けむりの本数が少ないことがわかる。

原風景形成期の古写真で確認できる湯けむりは、地獄や温泉施設から発生するものがほとんどであり、現在の鉄輪温泉地区でみられる、装置からの湯けむりは見あたらず、自然発生によるものであると考えられる。自然発生の湯けむりは、明治43年から徐々に開園された観光施設である「地獄」から発生するものがほとんどであるため、「鉄輪湯けむり原風景形成期」は、現在の鉄輪湯けむり景観が形成されるきっかけとなった、重要な期間であると考えられる。

温泉施設については、現存する共同温泉及び、既に失われて現在は遺構として残されている共同温泉や温泉施

設が原風景形成期間には存在していたことが明らかになった。



図10.6.1 鉄輪温泉地区の原風景・遠距離



図10.6.2 鉄輪温泉地区の原風景・中距離

建物については、図10.6.2から、原風景では木造・白壁でつくられた寄棟屋根をもつ建物が数多く存在していることが確認できる。また、現在では建築基準法の改正によりほとんど見ることはできない、木造の3階建て以上の建物が多く存在しているということも大きな特徴である。図10.6.5の空間利用の地図でも確認できるよ

に、風呂本地区にはこのような木造の3階建て以上の建物が建ち並び、周辺は趣のある路地空間であったことが伺える。図10.6.3は現在の旅館「築新」の場所に存在していた筑後屋新館の古写真。図10.6.4は現在の熱の湯前駐車場に存在していた大平屋の古写真。

また、原風景の鉄輪温泉地区は周辺が田畑で囲まれており、豊富な緑地が存在している。緑地帯の分布は地区の北から西に周辺をとりかこむように分布している。いでゆ坂とみゆき坂を分かつ県道別府山香線付近にも小規模な緑地が分布している（図10.6.5）。



図10.6.3 原風景形成期の筑後屋新館の古写真



図10.6.4 原風景形成期の大平屋の古写真

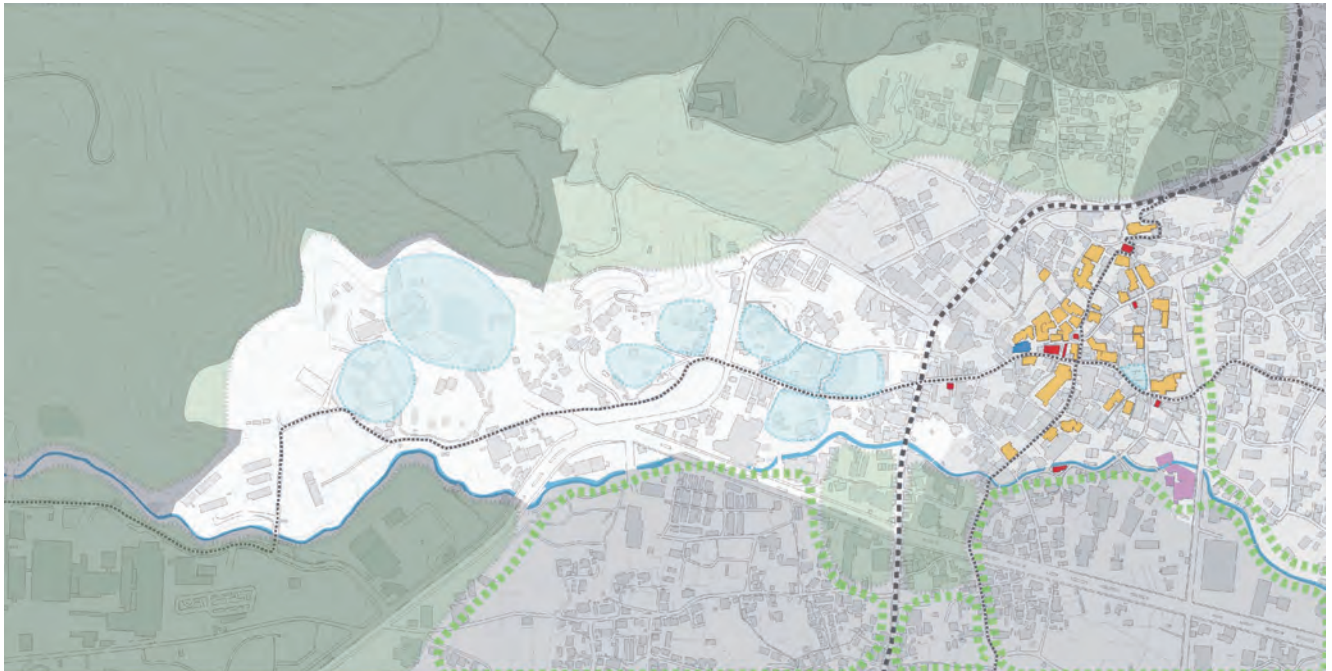


図10.6.5 原風景形成期間の空間利用

(3) 明礬温泉地区の原風景の抽出

空間利用の変遷を探ることにより、明礬温泉地区における重要文化的景観の変容プロセスを空間的に把握した。

- ①地区内の変遷を面的に明らかにした点
- ②古写真による調査を用い、ビジュアル的な変化を確認した上で変遷を明らかにした点

以上の2点から、「空間利用の変遷」は景観の変容と深く関わりがあると考えられる。

そこで、整理した景観変容期間のうち、「空間利用の変遷」に変化が見られない景観変容期間、さらに「空間利用の変遷」の傾向から景観形成の発達、または衰退期間の途上段階であると判断した景観変容期間を再度整理し、最終的な景観変容期間を抽出した。

明礬温泉地区の景観変容期間の概要を表10.6.2に示す。

表10.6.2 明礬温泉地区の景観変容期間概要

期間	— 1884	1885 — 1936	1937 — 1958	1959 — 1996	1997 — 2005	2006 —
	明礬集落・湯治場形成景期	明礬湯けむり景観原風景形成期	明礬湯けむり原風景衰退期	営業形態変遷期	明礬温泉地区衰退期	湯けむり景観保存・模索期
明礬景観変容期間	地獄地帯荒野期 共同温泉湯治場形成期 明礬集落地形形成期	湯の花小屋景観形成期 湯の花小屋景観安定期 明礬湯けむり原風景形成期	明礬湯けむり原風景衰退期 戦後湯治場復興期 明礬湯けむり景観混乱期	明礬湯けむり景観再生期 交通形態変遷期 営業形態変遷期	明礬温泉地区衰退期	湯けむり景観保存・模索期
map	①	②	③	④	⑤	⑥

明礬温泉地区では最終的に6つの景観変容期間を抽出することができた。うち、明治17年(1885)～昭和11年(1936)を「明礬湯けむり原風景形成期」とし、原風景を抽出した。

(4) 明礬温泉地区の原風景

明礬温泉地区における原風景形成期間（1885～1936）に撮影された古写真を提示し、原風景の特徴を述べる。

鉄輪温泉地区と同様に、明礬温泉地区の景観を創出する重要な景観構成要素として、「湯けむり」が挙げられる。図10.6.6を見ると、原風景の明礬における遠景景観での湯けむりは確認できない。しかし、図10.6.7の中距離景観では、「湯の花小屋」から発生する湯けむりによって創出される、湯けむり景観が確認できる。これは現在の明礬温泉地区においても同様の現象である。このことから、明礬温泉地区における湯けむりの発生状況は、原風景と現在では、さほど変化が見られないということが考えられる。明礬温泉地区に湯けむりを発生させ、かつ景観構成の主要要素であるといえる、「湯の花小屋」の増減と共に明礬温泉地区の湯けむり景観は変化すると考えられる。

原風景形成期間の湯の花小屋の分布は図10.6.11の空間利用の地図に示す通り、現在よりも広範囲に「湯の花小屋」が存在していたことがわかる。また、原風景形成期間における湯の花小屋の棟数は最多であり、図10.6.7のように、湯の花小屋による豊かな湯けむり景観が原風景に存在している。

温泉施設については、現存する共同温泉が原風景形成期間には全て開設されており、現在明礬温泉地区に存在する3つの共同温泉を中心に旅館が発生していることが図10.6.11で確認できる。共同温泉の建物は板・縦張り壁であった。図10.6.8は原風景形成期間後期の地蔵泉の古写真。また、原風景形成期では「薬師湯」と呼ばれる共同温泉が存在し、地蔵泉と共に、滝湯やむし湯を併設していた。

明礬温泉地区は鉄輪温泉地区と比較して旅館の入れ替わりが少なく、原風景形成期間に存在する旅館が、現在も継続して生業を続けているものが多い。原風景では旅館棟数は歴代最多であった。しかし、原風景形成期と現在の旅館棟数を比較すると、旅館棟数は半分以下となっており、原風景で旅館が存在した場所は駐車場や空き地へと変化している。

建物については、木造・白壁でつくられた寄棟屋根をもつ建物と、板張りの建物が数多く存在していることが確認できる（図10.6.9、図10.6.10）。階高は多くの建物が2階建てであり、現在よりも旅館棟数も多いため、岡本屋前から湯元屋前を取り抜ける明礬のメインストリートは、趣のある木造旅館が建ち並び、大変な賑わいを見せていた。

周辺の緑地及び地形は、原風景と現在の景観ではほとんど変化がみられず、明礬温泉地区の景観は建物の形状と棟数、そして湯の花小屋の棟数により大きく変化するといえる。



図10.6.6 明礬温泉地区の原風景・遠距離



図10.6.7 明礬温泉地区の原風景・中距離



図10.6.8 原風景形成期の地蔵泉の古写真



図10.6.9 明磐温泉地区の原風景・旅館群①



図10.6.10 明磐温泉地区の原風景・旅館群②



図10. 6. 11 原風景形成期間の空間利用